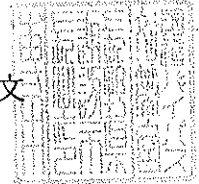




国土交通省道路局長
宮田年耕様

19 諏訪国道第1号
平成19年5月1日

長野県諏訪市長 山田勝文



国の中期計画作成についての意見の上申

国の中期的な計画の作成にあたり、下記のとおり意見の上申と依頼のありましたアンケートの回答送付を致しますので宜しくお取り計らい願います。

記

- 重点化を進める上で特に優先度の高い政策
- 意見・要望

新直轄方式の導入や国道、県道の歩道整備権限の移譲など、道路整備促進改善や中央から地方主体の考えに進んできた事は評価できる。

20年度に道路特定財源の法改正が予定されているが、道路特定財源は受益者負担の考えから、車の保有台数など地方が中央を支えてきたと言っても過言ではない。

道路整備が遅れている地域の納税者の理解が得られるか疑問である。納税者の理解を得るためにも遅れている地方の道路整備をより積極的に進めることと、進むという確信ができることが必要である。

地方が主体の考えが中心とすれば、道路整備においても地方の意見、要望、現状を真摯に受け止めて対応して頂く事が必要と考える。

・諏訪市の現状

当諏訪地域は諏訪湖に面する盆地であり、特に諏訪市は諏訪湖の上流域に位置し、歴史の中で何度となく河川の氾濫、諏訪湖のバックウォーターなど水害の被害にあってきた。

記憶に新しい昨年の7月梅雨豪雨災害では、国道・県道・市道の主要道路の全てが通行不可となり、国道20号の通行止めやJR中央線においても最大36時間の通行止めや不通を余儀なくされ、通過車両は中央自動車道の無料開放によりかろうじて対応したが、陸の孤島と化した。住民生活や建物・農地・道水路被害、

観光・物流などの経済被害など甚大な損失被害が生じた。

現国道の周辺住民の住環境や交通渋滞など、環境保全・時間損失のみならず、災害に強いまちづくり、災害における急患・物資の輸送など緊急用道路として、山の手計画されている国道20号バイパスの推進が必要不可欠なものと考えます。

国道20号とJR中央線は、1級国道では珍しく2箇所が平面交差しており、交通安全や渋滞緩和などの対策が必要と考えられます。

○ 優先度の高い政策

- ・ 渋滞解消・生活環境保全・防災のためのバイパスなどの都市基盤整備の促進（通過交通基幹道路と生活道路の分離）
- ・ 道路整備の促進（維持管理、耐震化、歩道設置、バリアフリー化、無電中化、浸水性舗装）
- ・ 高速道路の料金の更なる軽減（渋滞解消）
- ・ バイオ燃料の市場化の促進と利用促進（地球温暖化）
- ・ 財源の確保（受益者負担、目的税の考えが基本となる道路特定財源の確保）
- ・ JRとの立体交差化

● 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ・ 整備計画の見直しと計画の積極的な推進
（必要に応じて現状に即した計画変更を積極的に進める。生活環境・景観・歴史や文化等を考慮する。）
- ・ スマートICの更なる導入
（渋滞の解消、利用しやすい便利なものとしていく事が利用促進、効率化に繋がる。）
- ・ 高速道路の更なる割引化、無料化の促進（利用促進、幹線道路・生活道路の渋滞解消）
- ・ 踏切と交差する国道の改善改修（交通安全・渋滞解消対策）
- ・ 渋滞の解消、防災・事故防止から真に必要なバイパスの整備促進
- ・ 入札制度の見直し（高速道路など入札、伴う維持管理の入札など入札参加者を含めた入札制度の改善）
- ・ 道路サポーター制度の推進（管理面の強化、道路環境の改善、除雪対策、人員の削減）